



クラスタリングの基礎

この章では、次の項目について説明します。

- [概要 \(1 ページ\)](#)

概要

Expressway は、最大 6 つの Expressway のクラスタの一部にすることができます。クラスタ内の各 Expressway は、そのクラスタ内の他のすべての Expressway のピアです。クラスタを作成するとき、1 つのピアをプライマリとして指定します。プライマリから、その構成が他のピアに複製されます。

クラスタ内のすべての Expressway ピアは、同じルーティング機能を持つ必要があります — いずれかの Expressway が通話を宛先にルーティングできる場合、そのクラスタ内のすべての Expressway ピアは、通話を宛先にルーティングできると想定されます。ルーティングが異なる Expressway ピアの場合、別々の Expressway / Expressway クラスタを使用する必要があります。

クラスタリングの利点

クラスタ化された Expressway は、容量と復元力の両方にメリットがあります。

- **容量。** クラスタリングは、単一の Expressway と比較して、Expressway 展開の容量を最大で 4 倍に増やすことができます。
- **復元力。** クラスタリングは Expressway がメンテナンスモードの間、あるいはネットワークや停電によりアクセス不能になった場合に冗長性を提供します。クラスタ内の Expressway ピアは、帯域幅の使用状況に加えて、ルーティング、ゾーン、その他の構成を共有します。エンドポイントはクラスタ内の任意のピアに登録できるため、エンドポイントが最初のピアとの接続を失った場合、クラスタ内の別のピアに再登録できます。

容量の増加について

4つのピアの後に容量の増加はありません。そのため、たとえば6ピアのクラスタでは、5番目と6番目の Expressway がクラスタにコール キャパシティを追加することはありません。ピアを追加することで復元力は向上しますが、容量は向上しません。

小規模 Expressway VM は Cisco Business Edition 6000 の顧客を対象としているため、**小規模 VM のクラスタリングは冗長性のみを提供し、追加のスケールのメリットは提供しません。**

ライセンスについて

容量ライセンスはクラスタ単位で行われ、クラスタピアにインストールされたすべての容量ライセンスは、クラスタ内の任意のピアで使用できます。これには、リッチメディアセッションライセンスおよびルームシステムとデスクトップシステム登録ライセンスが含まれます。詳細については、「クラスタ内のライセンスの使用状況」を参照してください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。